

# 令和9年度消防庁予算 概算要求について

令和8年8月  
総務省消防庁

# 令和9年度 消防庁予算概算要求の概要

## 概算要求額

### ○一般会計 293.4億円 + 事項要求

(R8当初比 +163.4億円、125.7%増) (参考:R7補正 130.8億円)

うち『「強く豊かな日本」投資枠』138.1億円+事項要求

### ○復興特別会計 2.2億円

(対前年度比 +0.4億円、19.6%増)

## <主な重点取組事項>

### 1. CBRNE災害への対応能力の強化

### 事項要求

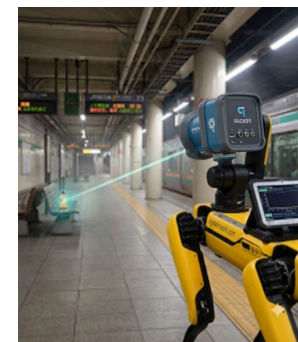
#### ○ 緊急消防援助隊におけるCBRNE災害への対応能力の強化<投資枠>

#### 【新規】事項要求

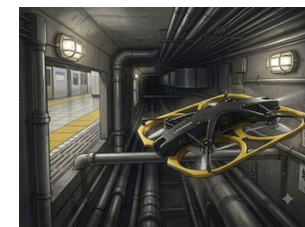
- より迅速かつ安全な対応ができる態勢を構築するため、国が主導して新技術を活用した最新鋭資機材を配備し、高度な対応能力を有する部隊を配置。

(参考) 最新鋭資機材の例

- 隊員が接近困難な現場において迅速な初動（偵察・検知）を可能とする四足歩行ロボットや偵察・測定ドローン、これらを積載する高度偵察車
- より多種類の剤の検知が可能な化学剤遠隔検知器や生物剤検知器
- 最新デジタル技術による指揮・隊員管理能力の高度化が可能な高度情報集約車



【四足歩行ロボット】



【偵察ドローン】



【化学剤遠隔検知器】



【生物剤検知器】



【長距離化学剤遠隔検知装置を搭載した高度情報集約車】



【高度偵察車】

## 2. 林野火災等の大規模災害に備えた消防防災力の充実強化

64.6億円

### ○ 大規模災害に備えた緊急消防援助隊の車両・資機材の整備<投資枠> 【拡充】63.6億円

#### <大槌町林野火災等の大規模林野火災に備えた対応>

うち39.4億円

- ・ 高所や急傾斜地など接近が困難な火災現場で、上空からの放水が可能な消火用放水ドローン等を新たに配備。
- ・ 山間部での水利確保や長期化する活動を支えるため、スーパーポンパー、大型水槽付き放水車、拠点機能形成車等を配備。



【消火用放水ドローン】



【スーパーポンパー】



【大型水槽付き放水車】

#### <大分市大規模火災、令和8年熊本地震、令和8年8月千葉豪雨等の大規模災害に備えた対応>

うち24.2億円

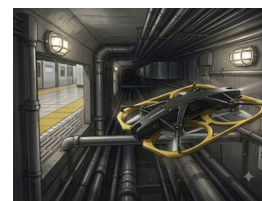
- ・ 狭隘路等にも進出し、大量送水や放水が可能な小型大容量ポンプ車や、隊員が近づけない場所等での消火活動のための無人走行放水ロボット等を配備。
- ・ 倒壊家屋など隊員が進入困難な現場において、迅速な偵察を可能とする偵察ドローンを配備（再掲）。
- ・ 倒壊家屋や土砂災害現場等における救助活動で有効な重機、高度土砂吸引車等を配備。



【小型大容量ポンプ車】



【無人走行放水ロボット】



【偵察ドローン】



【重機】



【高度土砂吸引車】

### ○ 航空隊における消火剤の導入推進事業<投資枠> 【新規】1.0億円

- ・ 消火剤を配備し、全国の消防防災航空隊への導入を推進。



【ヘリによる空中消火】

### 3. AI・ロボット・ドローン等の新技術の活用等による消防A X / D Xの推進

22.9億円＋事項要求

#### ○ 新技術現場実装モデル事業による消防A Xの推進＜投資枠＞ 【拡充】7.5億円

##### ＜消防指令システムや#7119におけるA I活用＞

うち4.9億円

- ・ A I が119通報や#7119の通話内容を分析し、指令員等の判断を支援するレコメンド機能の活用等についてモデル事業を実施。

##### ＜新技術の現場実装＞

うち2.6億円

- ・ 消防分野では未だ導入が進んでいないA I ・ ロボット ・ ドローン等の新技術について、消防本部での導入・運用を試行的に実施。



【消防指令システムにおけるA I活用イメージ】



【新技術の例：デジタル技術を活用した隊員の安全管理】

#### ○ 競争的研究費の拡充＜投資枠＞

【拡充】3.0億円

- ・ 消防行政の課題解決に資するA I やロボティクスなどの新技術に関する研究開発や、災害等を踏まえた緊急的な課題解決に資する研究開発を推進。

##### 【令和8年度の競争的研究費の採択例】

- ・ 林野火災用消火剤の消火・火災抑制効果の向上に係る研究開発
- ・ 地下閉鎖空間における救助活動に資する資機材等に係る研究開発

#### ○ マイナ救急の機能拡充＜投資枠＞

【拡充】4.7億円

- ・ 厚生労働省と連携し、マイナ救急で得られる受診歴などの情報を医療機関に連携させるための機能拡充等を図る。



【マイナ救急の機能拡充イメージ】

#### ○ 緊急消防援助隊におけるC B R N E災害への

対応能力の強化＜投資枠＞（再掲） 【新規】事項要求



## 4. 消防団等の充実強化

34.0億円

### ○ 救助用資機材等の整備に対する補助＜投資枠＞ 【拡充】 4.0億円

- 大規模林野火災、令和8年熊本地震、令和8年8月千葉豪雨なども踏まえた救助用資機材や新技術を活用した資機材等の整備を促進。



(排水ポンプ)



(水幕ホース)

【補助対象の例】

### ○ 救助用資機材等を搭載した消防車両の無償貸付＜投資枠＞ 21.4億円

- 機動性の高い小型車両を中心に、消防団に対する無償貸付を実施。



(小型動力ポンプ積載車(3.5t未満))(オフロードバイク)



【無償貸付の例】

### ○ 消防団の力向上モデル事業 【拡充】 4.3億円

- 消防団の充実強化につながるモデル事業を推進。  
特に女性や若者の入団促進、新技術の活用を図る取組を重点的に支援。



(林野火災想定訓練) (イベントでのブース出展)



【モデル事業の例】

## 5. 緊急消防援助隊・常備消防の充実強化

168.1億円＋事項要求

### ○ 緊急消防援助隊設備整備費補助金 【拡充】 68.9億円

- 「緊急消防援助隊基本計画」(R6～R10)に基づき部隊を増強するため、車両・資機材等の整備を促進。補助対象にドローンを追加。



(救命ボート)



(ドローン)

【補助対象の例】

### ○ 消防防災施設整備費補助金 13.7億円

- 耐震性貯水槽や高機能消防指令センター等の消防防災施設の整備を促進。



(耐震性貯水槽)



【ドローンの夜間飛行研修】

### ○ ドローン活用人材育成事業 【拡充】 0.4億円

- ドローン技術指導アドバイザーの夜間飛行の資格取得支援を拡充。

【補助対象の例】

## 6. 火災予防対策の推進

6.6億円

### ○ 感震ブレーカーの購入・取付支援<投資枠>

0.3億円

- ・ 著しく危険な密集市街地を有する自治体における感震ブレーカーの設置補助に対する支援を実施。



【感震ブレーカーの例】

## 7. 自治体の災害対応能力・国民保護体制の強化

46.1億円＋事項要求

### ○ 特定臨時避難施設（シェルター）の整備<投資枠>

25.8億円

- ・ 沖縄県の先島5市町村のうち、竹富町・多良間村における特定臨時避難施設の整備を支援。

|            | 竹富町                      | 多良間村                    |
|------------|--------------------------|-------------------------|
| 整備場所       | 新築する<br>(西表島)大原<br>庁舎の地下 | 新築する<br>移住定住促進住<br>宅の地下 |
| 工期<br>(予定) | R9～R11                   | R9～R11                  |

【シェルター整備の概要】

## 8. 消防防災分野における女性や若者の活躍推進

8.2億円

### ○ 女性消防吏員の更なる活躍推進

【拡充】 0.8億円

- ・ アドバイザー派遣事業やモデル事業を拡充し、更なる女性活躍の取組を推進。



(活躍する女性消防吏員の広報動画作成(徳島県))

【モデル事業の例】

## 9. 消防技術の海外展開・調査研究の推進

1.1億円

### ○ 消防防災インフラシステムの海外展開<投資枠>

0.4億円

- ・ 日本の消防技術の東南アジア諸国への普及を促進。

### ○ 海外先進事例の調査研究事業

【新規】 0.2億円

- ・ 海外での新技術の活用事例等の調査研究を新たに実施。



【消防防災関連企業における製品紹介  
(国際消防防災フォーラム 令和8年1月 マレーシア)】

# 參考資料

## 一般会計

括弧内は前年度当初予算額、前々年度補正予算額

### 1.CBRNE災害への対応能力の強化

#### 事項要求

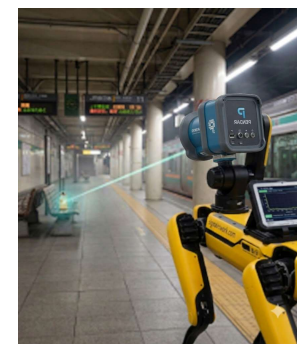
#### 【緊急消防援助隊の無償使用車両・資機材の整備】

##### ① 緊急消防援助隊におけるCBRNE災害への対応能力の強化<投資枠> 【新規】事項要求

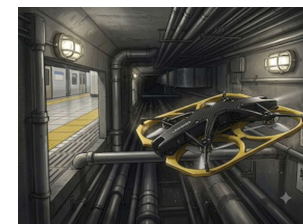
- より迅速かつ安全な対応ができる態勢を構築するため、国が主導して新技術を活用した最新鋭資機材を配備し、高度な対応能力を有する部隊を配置。

(参考) 最新鋭資機材の例

- 隊員が接近困難な現場において迅速な初動（偵察・検知）を可能とする四足歩行ロボットや偵察・測定ドローン、これらを積載する高度偵察車
- より多種類の剤の検知が可能な化学剤遠隔検知器や生物剤検知器
- 最新デジタル技術による指揮・隊員管理能力の高度化が可能な高度情報集約車



【四足歩行ロボット】



【偵察ドローン】



【化学剤遠隔検知器】



【生物剤検知器】



【長距離化学剤遠隔検知装置を搭載した高度情報集約車】



【高度偵察車】



## 2. 林野火災等の大規模災害に備えた消防防災力の充実強化

64.6億円

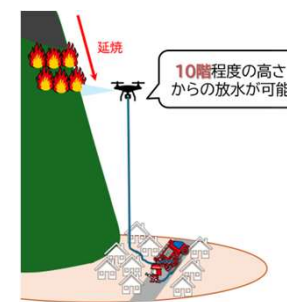
### ① 大規模災害に備えた緊急消防援助隊の車両・資機材の整備＜投資枠＞

【拡充】63.6億円(R7補 38.6億円)

#### ＜大槌町林野火災等の大規模林野火災を踏まえた対応＞

うち39.4億円(R7補 27.7億円)

- ・ 高所や急傾斜地など接近が困難な火災現場で、上空からの放水が可能な消火用放水ドローン等を新たに配備。
- ・ 山間部での水利確保や長期化する活動を支えるため、スーパーポンパー、大型水槽付き放水車、拠点機能形成車等を配備。



【消火用放水ドローン】

(上記以外の車両・資機材)

- 林野火災対策ユニット車
- 高機能エアーテント
- 小型支援車（仮称）
- 大型支援車（仮称）
- 通信環境構築資機材



【スーパーポンパー】



【大型水槽付き放水車】



【拠点機能形成車】



【林野火災対応ユニット車】



【高機能エアーテント】



【小型支援車(仮称)】



【大型支援車(仮称)】



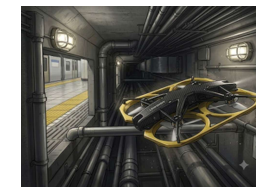
【通信環境構築資機材】

## 2. 林野火災等の大規模災害に備えた消防防災力の充実強化

### ＜その他の大規模災害に備えた対応＞

うち24.2億円（R7補 10.9億円）

- ・ 狭隘路等にも進出し、大量送水や放水が可能な小型大容量ポンプ車や、隊員が近づけない場所等での消火活動のための無人走行放水ロボット等を配備。
- ・ 倒壊家屋など隊員が進入困難な現場において、迅速な偵察を可能とする偵察ドローンを配備（再掲）。
- ・ 倒壊家屋や土砂災害現場等における救助活動で有効な重機、高度土砂吸引車等を配備。



【小型大容量ポンプ車】 【無人走行放水ロボット】 【偵察ドローン】



【重機】

【高度土砂吸引車】

【密集市街地対策ユニット車】

（上記以外の車両・資機材）

- 密集市街地火災対策ユニット車
- 機動前進指揮車
- 現場指揮活動高度化資機材
- 救助先行車及び携行型救助資機材等
- 特別高度工作車



【機動前進指揮車】

【現場指揮活動高度化資機材】

【救助先行車】

【特別高度工作車】

### ② 航空隊における消火剤の導入推進事業＜投資枠＞

【新規】1.0億円

- ・ 消火剤を配備し、全国の消防防災航空隊への導入を推進。



【ヘリによる空中消火】

## 3.A I・ロボット・ドローン等の新技術の活用等による消防A X / D Xの推進

**22.9億円+事項要求**

### ① 新技術現場実装モデル事業による消防A Xの推進<投資枠>

【拡充】7.5億円(R7補 2.5億円)

<消防指令システムや#7119におけるA I活用> 4.9億円 (R7補: 2.0億円)

- ・ A I が119通報や#7119の通話内容を分析し、指令員等の判断を支援するレコメンド機能の活用等についてモデル事業を実施。

<新技術の現場実装> 2.6億円 (R7補: 0.5億円)

- ・ 消防分野では未だ導入が進んでいないA I・ロボット・ドローン等の新技術について、消防本部での導入・運用を試行的に実施。



【消防指令システムにおけるA I活用イメージ】



【新技術の例：デジタル技術を活用した隊員の安全管理】

### ② 競争的研究費の拡充<投資枠> 【拡充】3.0億円(R7補 1.0億円、R8 1.4億円)

消防行政の課題解決に資するA Iやロボティクスなどの新技術に関する研究開発や、災害等を踏まえた緊急的な課題解決に資する研究開発を推進。

#### 【令和8年度の競争的研究費の採択例】

- ・ 林野火災用消火剤の消火・火災抑制効果の向上に係る研究開発
- ・ 地下閉鎖空間における救助活動に資する資機材等に係る研究開発



## 3.A I・ロボット・ドローン等の新技術の活用等による消防A X / D Xの推進

### ③ マイナ救急の機能拡充＜投資枠＞ 【拡充】4.7億円(R7補 2.2億円)

厚生労働省と連携し、マイナ救急で得られる受診歴などの情報を医療機関に連携させるための機能拡充等を図る。



### ④ 消防技術戦略の基盤強化に向けた調査・検証事業

0.6億円の内数(R8 0.6億円)

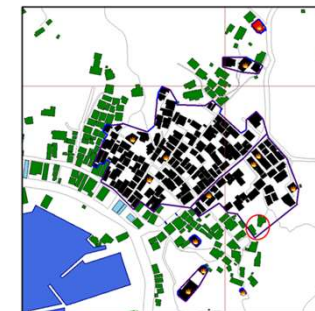
消防研究センターの研究実証環境を活用し、火災環境下におけるロボット等の新技術の活用を実証。



【消防研究センターの研究実証環境の例】

### ⑤ 消防研究センターにおける研究開発の推進 3.6億円(R8 3.4億円)

- 市街地火災延焼シミュレーションの研究開発
- 大規模物流倉庫火災等の消火困難な火災に対する消火手法の研究開発 等



【市街地火災延焼  
シミュレーション】



【倉庫区画内に進入可能な  
放水ロボット】



## 4.消防団等の充実強化

34.0億円

### ① 救助用資機材等の整備に対する補助＜投資枠＞

【拡充】4.0億円(R7補 3.0億円)

大規模林野火災、令和8年熊本地震、令和8年8月千葉豪雨なども踏まえた救助用資機材や新技術を活用した資機材等の整備を促進。

(R9年度追加予定)



ドローン



可搬消防ポンプ



可搬式散水装置  
(背負式水のう)



排水ポンプ 電動油圧切断機



電動運搬台車

電動アシスト  
ホースカー

水幕ホース

伸縮長尺消火ノズル

【補助対象資機材の例】

### ② 救助用資機材等を搭載した消防車両の無償貸付＜投資枠＞

21.4億円(R7補 20.7億円)

機動性の高い小型車両を中心に、消防団に対する無償貸付を実施。



(小型動力ポンプ積載車(3.5t未満))



(オフロードバイク)

【無償貸付の例】

## 4.消防団等の充実強化

### ③ 消防団の力向上モデル事業

【拡充】4.3億円(R8 3.9億円)

- ・ 消防団の充実強化につながるモデル事業を推進。
- ・ 特に女性や若者の入団促進、新技術の活用を図る取組を重点的に支援。



(林野火災想定訓練)



(イベントでのブース出展)

【モデル事業の例】

### ④ 消防団ドローン・DX推進事業

0.4億円(R7補 0.4億円)

- ・ 都道府県の消防学校において、ドローンの操縦講習のほか、伝達映像を共有した搜索活動等に関する講習を実施。
- ・ 国家資格取得に資するよう、「経験者」扱いとなる「飛行時間10時間以上」達成のための講習を新たに実施。



【ドローン講習】

## 4.消防団等の充実強化

### ⑤ 消防団入団促進広報事業

1.4億円(R8 1.4億円)

女性や若者をはじめとする幅広い住民の消防団への入団を促進するため、自治体等と連携し、各種広報活動を充実強化。



【入団促進イベント(ステージPR)】



【学園祭イベント】



【消防団入団促進用ポスター】

### ⑥ 自主防災組織等活性化・連携推進事業

1.0億円(R8 1.0億円)

自主防災組織等の立ち上げ支援、災害対応訓練、防災教育や住民への防災啓発など、自主防災組織等を活性化するための取組及び各組織等の連携を推進するための取組を実施。



【自主防災組織等立ち上げ支援】



【災害対応訓練】



## 5. 緊急消防援助隊・常備消防の充実強化

168.1億円＋事項要求

### (a) 緊急消防援助隊の充実強化

「1. CBRNE災害への対応能力の強化」、「2. 林野火災等の大規模災害に備えた消防防災力の充実強化」の他、以下の事業を推進

#### ① 緊急消防援助隊設備整備費補助金

【拡充】68.9億円(R8 54.9億円)

「緊急消防援助隊基本計画」(R6～R10)に基づき部隊を増強するため、車両・資機材等の整備を促進。補助対象にドローンを追加。

※令和8年4月1日時点 6,971隊



(消防ポンプ自動車)



(救助工作車)



(救命ボート)



(ドローン)

【補助対象の例】

#### ② 緊急消防援助隊の地域ブロック合同訓練の実施

【拡充】1.5億円(R8 0.9億円)

緊急消防援助隊の技術及び連携活動能力を維持・向上させるため、地域ブロック合同訓練を実施(全国6箇所)。



【緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練】



## 5.緊急消防援助隊・常備消防の充実強化

### ③ 緊急消防援助隊への救助技術の高度化及び普及事業 0.1億円(R8 0.1億円)

複雑多様化する災害に対応するため、国際規格を満たしたロープレスキュー技術等の高度化育成研修を実施し、全国の緊急消防援助隊へ救助技術の普及を推進。



【高度化育成研修のイメージ】

### ④ 消防防災ヘリコプター操縦士の養成 0.1億円(R8 0.1億円)

消防本部の職員を陸上自衛隊航空学校に派遣し、事業用操縦士資格（回転翼）を取得させ、消防防災ヘリコプター操縦士を計画的に養成。



【ヘリコプター操縦士養成のイメージ】

## 5.緊急消防援助隊・常備消防の充実強化

### (b) 常備消防の充実強化

#### ① 消防防災施設整備費補助金 13.7億円(R8 13.7億円)

耐震性貯水槽や高機能消防指令センター等の消防防災施設の整備を促進。



(耐震性貯水槽)  
【補助対象の例】

#### ② ドローン活用人材育成事業 【拡充】0.4億円(R8 0.1億円)

ドローン技術指導アドバイザーの夜間飛行の資格取得支援を拡充。



【ドローンの夜間飛行研修】

#### ③ 市町村の消防の広域化及び連携・協力の推進 0.2億円(R8 0.2億円)

消防力の維持・強化を図るため、消防の広域化や指令の共同運用など連携・協力を推進するためのアドバイザーの派遣等を実施。



【おおいた消防共同指令センター】

## 5.緊急消防援助隊・常備消防の充実強化

### ④ 消防大学校の教育訓練の充実強化

【新規】1.3億円

「消防大学校における教育訓練等に関する検討会報告書」（令和8年3月）を踏まえ、消防大学校における教育訓練内容の充実強化を図る。



【実火災体験型訓練設備の整備】

### ⑤ 救急救命体制の整備・充実

【拡充】0.13億円(R8 0.03億円)

- 救急安心センター事業（＃7119）の全国展開に向けた普及促進アドバイザー等の派遣。
- JRC（日本蘇生協議会）蘇生ガイドライン改訂等を踏まえた応急手当WEB講習の更新。

#### ＃7119(救急安心センター事業)

- 医師・看護師・救急救命士が相談に対応
- ・病気やけがの症状を把握
- ・緊急性、応急手当の方法、受診手段、適切な医療機関などについて助言
- 相談内容に緊急性があった場合、直ちに救急車を出動させる体制を構築
- 原則 24時間365日体制



【救急安心センター事業（＃7119）の概要】



【地下閉鎖空間における救助活動マニュアル】



【応急手当WEB講習の更新】



【動画コンテンツ】

### ⑥ 救助技術の高度化

0.2億円(R8 0.2億円)

年々激甚化・複雑化する自然災害等における救助業務の充実強化を図るため、救助活動技術等の具体的方策を検討し、各種救助活動マニュアル、動画コンテンツ等を作成。



## 6.火災予防対策の推進

6.6億円

### (a) 火災予防対策の推進

#### ① 感震ブレーカーの購入・取付支援<投資枠>

0.3億円(R7補 0.3億円)

著しく危険な密集市街地を有する自治体における感震ブレーカーの設置補助に対する支援を実施。



【感震ブレーカーの例】

#### ② 住宅防火対策等の推進

0.2億円(R8 0.2億円)

高齢化の進展に伴い死者が増加傾向にあることを踏まえ、住宅防火対策（住宅用火災警報器、住宅用消火器等）を総合的に推進。



（消火器、火災警報器）

（防災品）

【住宅防火対策の例】

## 6.火災予防対策の推進

### ③ 次世代AIデータセンター等における 消火設備のあり方に関する検討＜投資枠＞ 【新規】1.2億円

規制改革実施計画（令和8年7月21日閣議決定）を踏まえ、  
次世代AIデータセンター等におけるスプリンクラー設備の設置について  
検討。



【データセンターの例】  
（日本データセンター協会提供）

### ④ 林野火災に係る広報・啓発事業 【拡充】0.3億円（R7補 0.1億円）

近年、大規模な林野火災が頻発していることを踏まえ、  
幅広く興味関心が得られる効果的な広報を実施するほか、  
モデル事業の実施により、成果を全国の地方公共団体へ横展開し、  
各地域における効果的な林野火災予防の普及を推進。



【広報のイメージ】

## 6.火災予防対策の推進

### (b) 危険物施設等の安全対策の推進

#### ① DX新技術に対応した危険物保安等のあり方の検討 1.1億円(R8 0.7億円、R7補 0.4億円)

- ・ 国内のDX新技術の推進にあたり、半導体工場等の危険物規制について技術基準のあり方を検討。
- ・ 国際的な環境規制を踏まえ、危険物施設の泡消火設備についてP F A Sを含有しない泡消火薬剤及び消火設備の技術基準を検討。



【危険物施設の泡消火設備の例】

#### ② 石油コンビナートの大規模石油タンク火災に係る消火活動支援 【新規】1.0億円

大規模石油タンクの全面火災の消火に有効なP F A Sを含有しない泡消火薬剤及び消火戦術等について検証。



【大容量泡放射システム】



## 7.自治体の災害対応能力・国民保護体制の強化

46.1億円＋事項要求

### (a) 自治体の災害対応能力の強化

#### ① 自治体の災害対応能力の強化を図る研修等の推進 0.4億円(R8 0.4億円)

市町村長を対象とした災害対応シミュレーション訓練やセミナーのほか、自治体の危機管理・防災責任者等を対象とした研修を実施。



【市町村長訓練(オンライン)】



【全国防災・危機管理トップセミナー】

## 7.自治体の災害対応能力・国民保護体制の強化

### (b) 自治体の国民保護体制の強化

#### ① 国民保護共同訓練の充実強化

1.3億円(R8 1.2億円)

弾道ミサイル攻撃、大規模テロなどの国民保護事案への対応能力の向上を図るため、国と地方で共同訓練を実施。

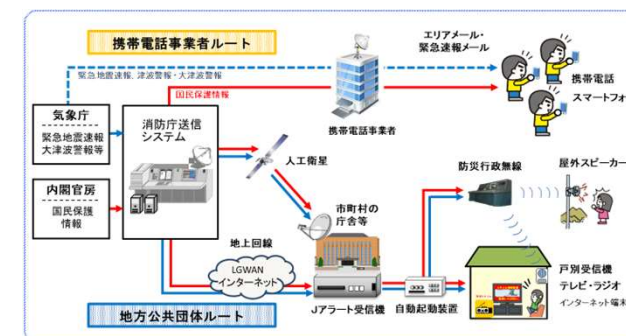


【国と自治体の国民保護共同訓練】

#### ② Jアラートの新システムへの更改<投資枠>

事項要求(R7補 5.0億円)

全国瞬時警報システム（Jアラート）の運用に支障が生じないように、ソフトウェアのアップデート等の対応を含むシステム改修を実施。

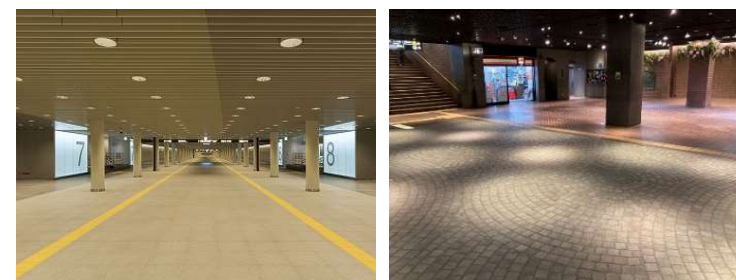


【Jアラート発信(イメージ)】

#### ③ 緊急一時避難施設指定推進アドバイザーの派遣

0.03億円(R8 0.03億円)

爆風等からの被害軽減に有効な地下施設等の避難施設の指定を促進するため、知見を蓄積した自治体職員等をアドバイザーとして派遣。



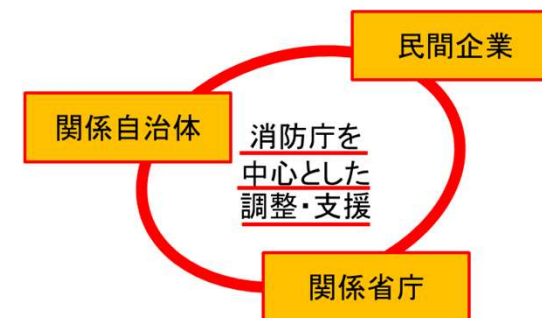
【地下施設等の避難施設の指定促進】

## 7.自治体の災害対応能力・国民保護体制の強化

### ④ 広域避難の検討に係る支援

0.1億円(R8 0.1億円)

沖縄県及び先島5市町村（与那国町、竹富町、石垣市、多良間村及び宮古島市）における広域避難を効果的に支援するため、民間のノウハウも活用しながら関係者間の調整を実施。



### ⑤ 特定臨時避難施設(シェルター)の整備<投資枠>

25.8億円(R7補 1.6億円)

沖縄県の先島5市町村のうち、竹富町・多良間村における特定臨時避難施設の整備を支援。

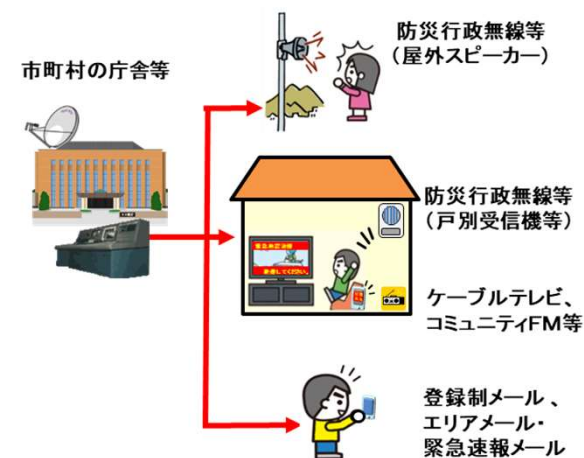
|            | 竹富町                      | 多良間村                    |
|------------|--------------------------|-------------------------|
| 整備場所       | 新築する<br>(西表島)大原<br>庁舎の地下 | 新築する<br>移住定住促進住<br>宅の地下 |
| 工期<br>(予定) | R9～R11                   | R9～R11                  |

## 7.自治体の災害対応能力・国民保護体制の強化

### (c) 防災情報の伝達体制の強化

#### ① 災害情報伝達手段に関するアドバイザー派遣事業＜投資枠＞ 0.3億円(R7補 0.3億円)

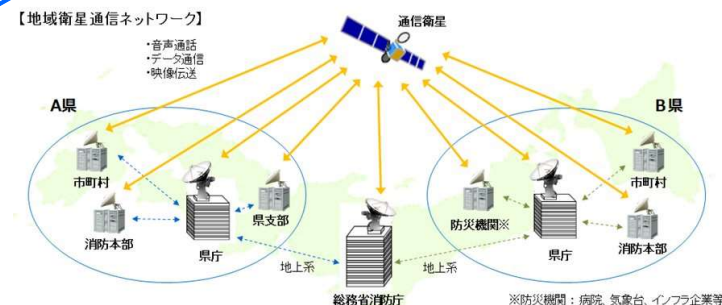
災害情報伝達手段の整備についての課題共有・解決を図るため、通信の技術等に関する専門的な知見を有するアドバイザーを全国に派遣し、各市町村における災害情報伝達手段の多重化を促進。



【情報伝達手段の多重化(イメージ)】

#### ② 地方公共団体庁舎等における非常用通信手段の確保対策＜投資枠＞ 4.0億円(R7補 2.6億円)

消防庁と地方公共団体における非常用通信手段の確保のため、地域衛星通信ネットワークの第3世代システム等の整備を実施。





## 8.消防防災分野における女性や若者の活躍推進

8.2億円

### (a) 常備消防

#### ① 女性消防吏員の更なる活躍推進等 【拡充】0.8億円(R8 0.7億円)

アドバイザー派遣事業やモデル事業を拡充し、更なる女性活躍の取組を推進。



【アドバイザーによる講演】



(活躍する女性消防吏員の  
広報動画作成(徳島県))

【モデル事業の例】

### (b) 消防団・自主防災組織等

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| ① 消防団の力向上モデル事業(再掲)      | 4.3億円(R8 3.9億円) |
| ② 消防団入団促進広報事業(再掲)       | 1.4億円(R8 1.4億円) |
| ③ 全国女性消防操法大会            | 0.3億円(R8 0.3億円) |
| ④ 全国女性消防団員活性化大会         | 0.1億円(R8 0.1億円) |
| ⑤ 消防団等充実強化アドバイザーの派遣     | 0.1億円(R8 0.1億円) |
| ⑥ 自主防災組織等活性化・連携推進事業(再掲) | 1.0億円(R8 1.0億円) |
| ⑦ 地域防災力充実強化推進事業         | 0.3億円(R8 0.3億円) |

女性や若者をはじめとする幅広い住民の消防団への入団を促進するため、各種広報活動や消防団等充実強化アドバイザーの派遣等を実施するとともに、女性消防団員等の培った消防操法技術を競い合う大会を隔年で開催。



【女性団員による  
救急救命訓練の様子】



【女性の活動環境整備】



【全国女性消防操法  
大会の様子】



【全国女性消防団員  
活性化大会の様子】

## 9.消防技術の海外展開・調査研究の推進

1.1億円

### (a) 消防用機器等の海外展開

- ① 国際消防防災フォーラムを活用した消防防災インフラシステムの海外展開の推進＜投資枠＞ 0.4億円(R8 0.3億円)

日本の消防技術の東南アジア諸国への普及を促進。



【消防防災関連企業における製品紹介  
(国際消防防災フォーラム 令和8年1月 マレーシア)】

- ② 日本規格に適合した消防用機器等の競争力強化＜投資枠＞ 0.1億円(R8 0.1億円)

日本の規格・認証制度の普及を東南アジア諸国に対して推進。



【ベトナム消防防災展での講演の様子(令和7年8月)】

### (b) 海外の消防技術の調査研究

- ① 海外先進事例の調査研究事業 【新規】0.2億円

海外での新技術の活用事例等の調査研究を新たに実施。



【海外関係機関の現地視察・意見交換(イメージ)】

- ② 海外の教育研究機関に係る先進事例調査 【新規】0.3億円の内数

C B R N E や大規模火災に対応した教育訓練施設の整備について検討するため、海外の先進事例調査を実施。

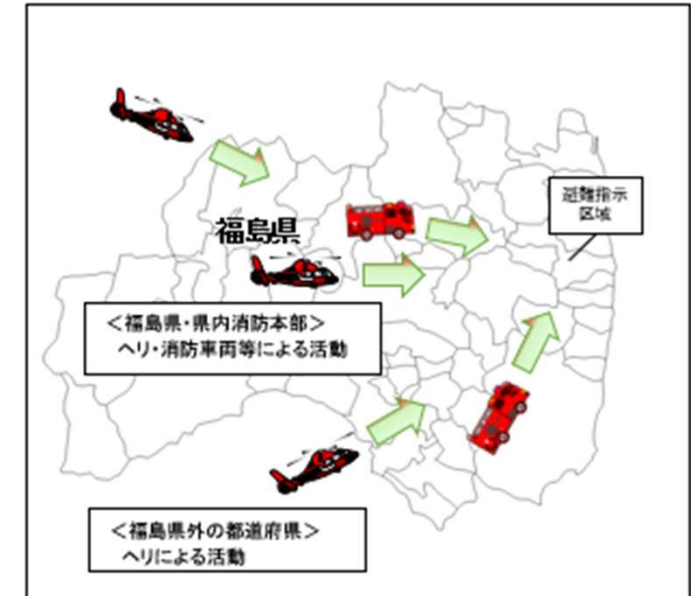
## 被災地における消防防災体制の充実強化

2.2億円

### ① 原子力災害避難指示区域消防活動費交付金

2.2億円（R8 1.4億円）

福島第一原子力発電所事故に伴い設定された避難指示区域における消防活動の応援等、消防体制強化に必要な経費を支援。



【避難指示区域における消防活動のイメージ】